

実証実験の結果の一部について、令和8年9月30日時点での集計を速報として報告します。

ポイント

- ・協力の強制につながる働きかけを控え、任意性を尊重した結果、8月の協力率は約40%にとどまった。
→来年度に向けては、積極的な広報や収受箱の設置位置の工夫など、協力率の向上につなげたい。
- ・入山者アンケートでは概ね好意的な意見。山小屋、トイレチップへの影響は見られなかった。

1 実証実験の概要

期 間：8月10日(月)～19日(水) **有人**（収受員各日4人）で収受
9月11日(金)～20日(日) **無人**（監視者は配置）で収受
場 所：①鳩待峠 ②大清水
協力金額：500円／口
※中学生以下、管理者等は対象外



2 実験結果（中間速報）

	8月	9月	合計
収受金額 （うちキャッシュレス）	1,300,885円 （231,600円）	339,815円 （77,500円）	1,640,700円 （309,100円）
入山者数 ※概算値	約6,500人	集計中	集計中
協力率 ※一人500円で推計	約40%	集計中	集計中

3 実証実験の反響（現時点）

（１）入山者アンケート調査（回答期限10/7）※最終的な集計・分析は回答期限後に実施予定

- ・対象者 第1回実証実験中、実証実験期間外、第2回実証実験中の入山者
- ・主な調査項目
実証実験の認知度、協力金額、協力した理由、協力金による影響、協力可能な金額 等
- ・入山者からは、「維持のために必要と思う」など概ね好意的に受け止められている意見が多かったが、一部で「金額によって訪問頻度が変わる」という意見もみられた。

（２）山小屋へのヒアリング調査（8/25～26実施）

- ・山小屋関係者に対し、宿泊数や売店・軽食等の利用状況への影響について聞き取りを実施した。
- ・主な意見
 - ・例年の同時期と比較して大きな影響は感じられなかった。
 - ・協力金による影響があったかどうかは分からなかった。

（３）トイレチップへの影響調査

- ・第1回実証実験期間中のトイレチップ（山の鼻・尾瀬沼）収受状況について検証を行った。
- ・実証実験前後、直近3か年の同週同曜日との比較をした結果、影響は確認されなかった。

4 今後の予定

令和8年12月 第2回実証実験（無人収受）における協力率等の公表

令和9年2～3月 令和8年度実証実験結果の報告